

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3371100433		
法人名	(株)メディカメント		
事業所名	グループホーム いやしの家 備前2		
所在地	岡山県備前市伊部323-1		
自己評価作成日	平成25年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3371100433-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階
訪問調査日	平成25年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

備前焼の里の落ち着いた環境の中で穏やかな毎日を送ってられます。 今年はお花を育てるスペースが増え、夏には向日葵、朝顔、秋にはコスモスを植えて水やりや草むしりと戸外の生活も充実しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

9年目を迎えた当事業所は「家族と暮らしていく」を生活心得とし、自分の親だったらどう思うかを根底に日々のケアに取り組んでいる。利用者が率先して菜園の草取りや花の水やり、布団干し等を手伝い、職員は利用者のペースに合わせて見守り、できない部分をさりげなく補う利用者の自主性と自立を尊重した支援が行われている。地域住民との日常的な交流や地域行事の参加を積極的に行い協力体制に繋がっている。さらに日々の健康や緊急時に安心した医療連携が確立されており、重度化や終末期の看取り介護の取組みも図っている。グループホームとして本来あるべき姿のサービスを提供しており、今後も尊厳を重んじる個別支援と地域交流の拡充が大いに期待できる。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲示し、二カ月ごとのカンファレンスで確認し共有している。	理念は事務所の目立つ場所に掲示し、意識づけを行うと共に、カンファレンス時に全職員で確認し、共有化を図りつつ支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	文化祭や備前焼祭りなどの地域の催しがあれば参加して地域との交流を深めている。	文化祭に参加し、作品や手品を見たり、バザー品を購入している。ボランティアによる銭太鼓や日本舞踊、コーラスグループの来訪があり、地域住民との交流を深めている。さらに近隣の保育所に働きかけ、交流機会を広げる取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生や福祉大学の学生など夏にボランティアの受け入れをして理解を深めてもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で現況報告をし、意見を聞きサービス向上に活かしている。	消防実地訓練や家族会等を兼ね、町内会長や住民、家族や地域のボランティアが参加され、年に3回行われている。地域包括にも声掛けを行い参加の依頼をしている。	運営推進会議の曜日を見直し、警察署や消防署にも働きかけ参加して頂くことで、意見交換とさらなるサービスの向上に活かせることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況を報告し、協力関係に取り組んでいる。	地域包括センター主催の研修に参加したり、介護保険課に出向き、事業所の報告や相談をする事で協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中はいつでも出入りできるように開放している。	身体拘束の資料を整備し、具体的な行為について、職員間で話し合っている。独自のマニュアルも作成中である。安全のため、やむを得ない場合は、ご家族に説明し同意を頂き、ベッド柵を検討している。	定期的に行われているミーティング時に「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」の勉強会を行い、全職員が更なる理解を深めることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	出来る限り研修などの学ぶ機会を持つように心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度についての理解はできる限り学ぶ機会を持ち、必要が生じたら活用できるように支援していきたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族が理解、納得ができるようにゆっくり時間をかけ説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず介護記録を見ていただき、意見要望があればカンファレンスなどで反映させている。	日常生活を詳細に介護記録に記載し、家族の面会時に見て頂いたり、家族会で意見や要望を伺っている。家族からの意見や要望は、会議で話し合い、事業所ででき得る限りの対応に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例の管理委員会で代表者に報告し反映させている。	ホーム長はミーティング時や昼休みに、職員の意見や気づきを聞く機会を設けている。緊急時には、日中や夜間に駆けつけ、早期に対応しており、職員からの信頼も高い。出された意見や要望は職員間で検討し、管理委員会に報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理委員会で報告を受け状況を把握し整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップや資格取得に必要なならば勤務調整など協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	備前市独自の「グループホーム連絡会」で勉強会や見学会を行い質の向上になるように取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期には特に声掛けを多くして顔なじみになるようにし、本人が安心して話してこれる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や心配の多い初期には、状況報告を多くして信頼関係を作る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、家族と本人が何を望んでいるか職員全体で見極め報告し、より良い支援ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする者同士の関係を築くため、炊事、洗濯、掃除を一緒にし、同じテーブルを囲んで食事をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時に介護記録を読んでいただき、日常生活を知っていただく事で共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人など馴染みの人が気軽に来ていただける雰囲気作りに努めている。	家族や友人の訪問は定期的であり、利用者の馴染みの美容院が継続できるよう職員が送迎している。家族の協力を得て、美術館や墓参り、自宅に帰られる利用者もあり、馴染みの人や場所との関係継続の支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格、相性を把握するよう努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつまでも支援や相談に応じるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、希望や意向が引き出せるように一人ひとりと話す機会を持つようにしている。	日々の生活の中で利用者と会話しながら希望や意向を把握している。表出できない利用者には、家族から情報を得たり、表情や反応を観察し、思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの馴染んだ生活をできるだけサービスに取り入れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録で一日の状態を職員が把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	二カ月ごとのカンファレンスで話し合い、家族の意向も取り入れ介護計画を作成している。	全職員が利用者のニーズや思い、意向を申し送りノートや介護記録に細かく記載し、介護計画とモニタリングに繋げている。定期的に評価を行い、状態の変化時や更新時には家族等の意見を伺い、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートを活用して介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽しみのある生活ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族で決めてもらっている。	かかりつけ医は利用者や家族の希望に沿っている。月2回協力医療機関の医師による訪問診療や訪問看護師との連絡体制が万全であり、日常の健康管理と共に緊急時や夜間においても、適切な医療が受けられるように支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護で様子を報告し健康管理をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月二回の往診で日ごろの健康状態を知っていただいているので早期退院につながっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取りの説明をして同意書を得ている。 重度化した場合は、その時点で再度意向を聞いて共に支援している。	契約時に看取りの説明をし同意を得ている。医療行為がない限り、事業所は看取りを行う方針であり、協力医療機関と連携を図る体制が整っている。重度化した場合は、再度、家族の意向を確認し、家族、医師、職員で話し合い、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡や対応を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を行っている。	消防署立ち会いの下、地域住民の参加を得て、火災を想定した避難訓練を年2回実施している。今後は、火災だけでなくあらゆる災害を想定したマニュアル作りや非常食の備蓄についても検討をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの時には声の大きさや、場所に気を配り支援している。	会話の内容を他の人に聞かれたくない利用者には居室で話したり、着替え時にドアを閉める事を徹底し、プライバシーや尊厳の確保を図っている。個人情報の書類は事務室に整備保管され、情報の漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを伝えられる様、話しやすい関係を築くよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で細かい取り決めをせず、一人一人の生活のリズムを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院に行ったり、買い物の希望があれば同行するなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の準備をしたり、自由に食べていただけるようにできるだけ介助は控え、時間がかかっても思うように食べていただいている。	利用者の誕生日には嗜好に沿った食事を提供したり、弁当持参で花見に出かける等食事を楽しむ工夫をしている。事業所の畑で収穫した野菜が並ぶ事も多い。下ごしらえやテーブル拭きなどの役割を担っている利用者もおられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量のチェック表で一日の必要量を確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は一人一人に合ったケアをし、入れ歯は毎晩消毒している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用してトイレでの排泄を基本にしている。	トイレでの排泄を基本としており、排泄チェック表を活用する事で、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し声かけや誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないように注意し、朝の冷たい牛乳で排便を促したりして下剤に頼らない排便を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	湯船に浸かることを基本とし、冬至にはゆず湯をするなど入浴を楽しんでいただく工夫もしている。	1日おきの午後より入浴している。入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、翌日に入っていたく等個々に応じた支援を行っている。冬至にはゆず湯で季節感を出す等入浴を楽しむ工夫がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの習慣を大切にするため一人一人の睡眠時間は違っている。 昼食後は各自の居室で自由に過ごして頂く時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、効能、副作用など薬剤師の指示や指導で確実な服薬支援ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人のできる力を活かし、楽しみながら役割ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	さくら、藤、コスモスなど季節感のあるお花見を楽しんだり、家族の協力で外食や外泊も自由に楽しんでいただいている。	利用者の希望に応じて近所に散歩に行ったり、隣市の大手スーパーに出かけている。さらに、季節の花見に行く等積極的に出かける機会を設けている。今年は和気町のさくらや藤公園、吉井町のコスモスの見学に行き、利用者に喜ばれている。畑や庭には日常的に自由に入出入りしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば買い物に同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりも希望に応じた支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のお花を活けたり、季節感のある壁画を飾ったりして居心地の良い空間を作っている。	一体感のある平屋の構造で、地域の方の絵手紙や利用者が活けた花が飾られている。彩光溢れる広いリビングの窓からは、稲刈りや雪等周りの景色を眺める事ができ、四季の移り変わりが楽しめる空間となっている。浴室の出入り口には表示を行い、利用者が混乱しないように工夫されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	置コーナー、ソファのコーナーなど思い思いに過ごせる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族の相談で思い思いの居室作りをしてもらっている。	居室にはカーテンやエアコン、加湿器が備えられている。思い出の品で居室作りをして頂きたいと利用者や家族に説明しており、家族の写真や仏壇、ぬいぐるみを置いている居室があり、一人ひとりが居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所に迷わず行けるように張り紙をしたり、安全に移動ができるように障害物を置かないようにしている。		